標準 12 誘導心電図検査	S005
	担当部署
ECG	生理

検査オーダー

患者同意に関する要求事項		該当なし
オーダリング手順	1	電子カルテ→指示①→生理→心電図→安静時心電図標準 12 誘導
	2	電子カルテ→指示①→生理→心電図→右胸部四肢逆付心電図
	3	電子カルテ→指示①→生理→心電図→ブルガダ様胸部付き心電図
	4	電子カルテ→指示①→生理→心電図→ポータブル心電図(安静時心電図標準 12 誘導)
	5	
検査に影響する臨床情報		ジキタリスにより盆状の ST 低下がみられる。 肢誘導：両手首、足首が何らかの事象により装着出来ない場合、より体幹側へ装着しその旨を記載。 胸部誘導：指定されている部位に装着できない場合は近い部位に装着してその旨を記載。 体位：仰臥位がとれない場合は座位等で測定しその旨を記載。
検査受付時間		8：45～17：30

検体採取・搬送・保存

患者の事前準備事項	検査直前の激しい運動は避ける。
検体採取の特別なタイミング	特記事項なし

検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	人体(心臓)	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					

検体搬送条件	ベッド可能
検体受入不可基準	1）体動が激しく安静を保つことができない患者

	2）検査に同意が得られない患者
保管検体の保存期間	特記事項なし

検査結果・報告

検査室の所在地	病院棟 3 階　中央検査部
測定時間	3 時間
生物学的基準範囲	1) P 波 Ⅰ・Ⅱで上向き、高さ 0.25 mV 以下、幅 0.07 秒～0.10 秒 2) PQ 間隔 0.12 秒～0.20 秒 3) QRS 群 R の大きさはⅡ＞Ⅰ＞Ⅲの順、高さ 0.6 mV～1.6 mV, Q は R の大きさの 1/4 以下、幅 0.04 秒以内 S の幅 0.06 秒以内 QRS 時間 0.06 秒～0.10 秒 4) ST 零線上から、0.1 mV 以内の上昇、0.05 mV 以内の下向き 5) T 波 Ⅰ・Ⅱは常に上向き、高さ 0.2 mV～0.5 mV で P の高さの 2 倍、幅 0.10 秒～0.25 秒 6) QT 間隔 0.35 秒～0.44 秒
臨床判断値	生物学的基準範囲以外の場合

基準値				単位	特記事項なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし

パニック値	高値	急性心筋梗塞を疑う ST 上昇 心室頻拍 心室細動
	低値	該当なし
生理的変動要因		該当なし
臨床的意義		心電図検査は、循環器系疾患の診断には欠くことのできない検査であり、特に以下の診断、およびこれらの疾患の経過、予後および治療効果判定などに、すでに確立された検査法として頻用されている。 1）不整脈(刺激生成異常、興奮伝導異常) 2）心肥大(心房、心室)

	3）虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症) 4）電解質代謝異常(特にカリウム) 5）薬剤の影響(ジギタリス、キニジンなど) 6）心臓に影響を及ぼす全身性疾患 ただし、心電図の所見は電気現象を間接的にとらえているにすぎないことから、心電図上は正常であっても心臓に異常なしと判定することは難しく、また異常であっても確定診断を下すためには経過を追って観察すること、他の臨床所見に照らしながら総合的に解釈することが大切である。